



ろうけんくがやま施設長

たかはし よしき

高橋 愛樹

【出身校】

昭和大学医学部

【専門医】

日本救急医学会救急科専門医

日本集中治療医学会専門医

【趣味】

テニス

平成23年4月1日から勤務しております。私は昭和41年に昭和大学医学部を卒業し、1年間のインターンの後、昭和大学の外科へ入局、一般消化器外科を専門にしていました。

昭和50年の昭和大学藤が丘病院の開設と共に移り、外科医として働きました。昭和60年に救命救急センター開設と同時に移籍、藤が丘病院救命救急センターを運営し、日本救急医学会指導医指定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療学会専門医指定施設となり、平成3年から救急医学科教授として、救急・集中治療を専門にし、神奈川県・横浜市の救急業務を通じ地域に貢献し、平成17年3月31日定年退職致しました。

定年までは、老後のことなど考えない生活で、病院と自宅の往復でしたが、私自身が4月から介護保険第1号被保険者となり、家に帰ると90歳の老母と64歳の老妻がおり、自分も若いと思っけていても確実に加齢の影響が肉体的にも精神的・生活面にも出ていることを実感している時、茨城県石岡市の介護老人保健施設を頼まれ老人介護に手を染めることになり、今迄の医療との違いに戸惑っていました。

しかし、老化は生物であれば例外なくやってくるもので、やってくれば進行し、避けて通るわけにはいきません。そこに世話になっていましたが、母親も95歳となり妻もパーキンソンの進行と大腿骨頸部骨折のため日常生活が制限され、老老介護となり、通勤も大変となり昨年5月退職いたしました。

日常の心懸、社会との繋がりを大切にし、適度な運動などで老化の発現・進行を遅らせることが可能と考えていたところ、縁あってろうけんくがやまに厄介になることになりました。

一般消化器外科医18年、救急医18年、老人介護5年の経験を生かし、老人介護、地域医療に残りの少ない人生を意義あるものにしたいと考えています。そして人生の定年即臨終まで働きたいと考えています。